

知恵の樹

No. 241 2019.12.25

町田の図書館活動をすすめる会
<https://machida-library.jimdo.com>

代表：手嶋 孝典
tejitaka@f8.dion.ne.jp

町田の歴史と文化の蓄積を生かした未来づくりへ 向けて…「まちチャレ講座」未来づくり版に多くの市民が参加

藪田 碩哉(まちだ未来の会代表)

●過去を知らずして未来は描けない

「まちだ未来の会」は今年度、市が助成する市民企画講座「まちチャレ」に応募、見事当選して「もっと知りたい！ 町田ならではの歴史と文化」講座を10月から月1回のペースで進めている。その趣旨は、町の未来づくりを単なる夢物語にしないためには、町の歴史と文化を深く掘り下げて、先人たちが積み上げてきた文化資本をしっかりとわが物にすることが先決だということにある。

実際、行政というものは国から自治体まで、どこでも「計画づくり」がお好きで、大小さまざまな計画が立案されているが、いずれも現在の問題点を対症療法的に改善しようとする目先の計画で、過去へのまなざしを欠き、地域の特色（歴史や文化）に注目して、その潜在力を引き出そうという発想に乏しい。多くの計画が地域に根っこを持たないコンサルタント会社に丸投げで、彼らはどこへ持って行っても通じるような金太郎飴みたいな計画しか書けないからである。計画づくりへの「市民参加」はうたわれていても、それは形ばかりのワークショップとパブコメぐらいでお茶を濁しているものばかりだ。

●連句—民権—図書館—個展の町田

「温故知新」とは味のある格言である。「未来の会」は過去を知らない未来づくりの危うさを克服して、町田という地域の持つ潜在力を探るべく、「連句」「民権」「図書館運動」「市民の個展」という4つの切り口から町田の歴史と文化を洗い直してみた。

①連句の町田

江戸時代後期に町田の大谷に五十嵐浜藻という女流の連句師がいて、江戸から長崎まで幅広いエリアを訪ね歩いて活躍した。女性の活躍でも町田は先鞭をつけていたのだ。連句は「座の文芸」と言われ、参加するメンバーの連帯と協働が土台であり、当時の人々の文化的エネルギーを結集する営みであった。講師の佛淵雀羅氏によると、明治初期に政府に歯向かった秩父騒動の農民たちを結束させる上でも連句が大きな役割を果たしたという。

②民権の町田

「自由民権資料館」の存在は広く知られているが、民権運動を支えた明治の若者たちの民権意識こそ重要な文化遺産である。「五日市憲法」の研究者である新井勝紘講師は、山深い多摩の村人たちが学習会を重ねて練り上げた憲法草案の先進性を指摘し、町田にもつながる民権人脈を紹介された。明治の若者たちの熱い思いを圧殺した明治憲法の反動性と日本国憲法こそが明治・大正の民権運動を正しく継承するものであることを確認した。

③農村図書館の町田

大正から昭和の戦前期、鶴川は小作争議が盛んだった。その渦中に飛び込んで農民運動の支援に打ち込んだ若き浪江虔氏は、知識こそ民衆の武器だと考えて「農村図書館」を設立する。官憲の過酷な弾圧に耐えて図書館を守り抜いた浪江氏と八重子夫人は、戦後も図書館活動を続け、地域文庫を育て、移動図書館を始動させて全国の図書館運動の先駆けとなった。講師を務めた元町田市立図書館長の手嶋孝典

氏は、この輝かしい町田の歴史を無視して図書館削減を画策する現市政を厳しく批判した。

④23万人の個展の町田

個展と言えば優れた創作者が開くものという常識をひっくり返して、すべての市民が自らの個性を披露しあう場を市民祭として追求した1973年の「23万人の個展」。この破天荒な祭りがどのように作られ、多くの市民に支持され、町田市民の一体感を育てたかについて、当時市役所の若いスタッフとして祭りに参画した森口克弘氏は飽くことなく語り続けた。改めて町田の市民パワーのすごさを感じさせてくれた。

●未来づくりワークショップへ参加を

4回の講座を終えて年明けの1月11日(土)午後2時から、生涯学習センター視聴覚室で、総集編とも言える「町田の未来づくりワークショップ」が開かれる。過去を今一度掘り起こして見つけ出した町田の宝物を最大限に生かして、市民の生活の質を豊かにするようなまちづくりのビジョンを創り上げなくてはならない。

原動力は文化の力である。町の文化を支える博物館、図書館、文学館、生涯学習センター等を拠点に活動してきた夢と意欲のある市民の力で、町田の可能性をとことんまで追求していきたい。市民文化運動の連合戦線づくりとも言えるこの会合に多くの市民が参加して下さることを願っている。

報告

秋晴れの下、鶴川図書館応援まつりに多くの方々が参加

鈴木 真佐世 (鶴川図書館大好き!の会)

11月16日(土)、鶴川団地センター名店街<太陽のひろば>で開催した「鶴川図書館応援まつり」は、天候にも恵まれ、いろいろな団体・地域の方の協力のおかげで、とても楽しいまつりの一日となりました。プログラムが色々あり、それぞれのブースにも分れましたので、各ブースからの報告・感想を含めてお伝えします。

ママさんブラスバンド

ステージで10時に富岡代表の挨拶の後、能ヶ谷の「みどりの森保育園」のママさんブラスバンドでオープニングを盛り上げていただきました。「地元図書館の存続のため少しでもお力になれるよう応援します。当日は屋外でしたが天候も良く気持ち良く演奏出来ました。」(園長 鈴木雅人)

おはなし会

続いて、ステージで、大蔵町にある柿の木文庫の有志8人によるおはなし会が行われ、たくさんの親子が鶴川図書館からお借りしたクッションマットに座って、見てくれました。同名児童書をもとに手作りした人形劇「もりのへなそうる」では、へなそうるがそばまで行くと子どもたちは大喜び。文学館から借りた大型紙芝居「こねこのしろちゃん」に続いて、鶴川図書館から借りた大型絵本「おおきなかぶ」では、大きな



蕪を「よいしょ」と引っ張る時に子ども達に応援してもらいました。(金井在住、鈴木)

署名コーナー

気持ち良く晴れた秋空の下、署名ブースの準備が整ってすぐに年配の男性が一番乗り。

「署名するために来たんだよ。歩いて行ける図書館が無くなったら困っちゃうからね。」赤ちゃんを抱っこしながら、お子さんの手を引きながら署名して下さったお父さん、お母さん。硬筆ノートに書くように一文字一文字ていねいに綴ってくれた小学生。「お買い物のついでに寄れるのがいいのよね」「うちの子たち、この図書館の本で大きくなったのよ」たくさん声と共にいただいた署名160筆。ほんとうにありがとうございました。(鶴川5丁目在住、中村)

古本市

5月の太陽の広場バザー、夏まつりでも大人気だった古本「未来堂」は、今回も、寄贈していただいた本およそ300冊を並べて10時に開店。文庫本と子どもの本で古いものは1冊50円、大人の単行本は100

円、新品の子どもの本は 200 円～300 円。50 円均一コーナーを広く設けたのが効を奏したのか、お子さん自身が一人でも 3 冊、5 冊と複数買っていてくれました。



また私が子ども時代にはなかった新しい児童文学のシリーズも「あっ、～のシリーズが

ある！」とお目当ての巻を一所懸命探したり、本離れ、読書離れが叫ばれているのはどこの世界の話？といった感じで頼もしい限りでした。親御さんは、ご自身も読んだのでしょ、ロングセラー本を「我が子に与えたい」と迷いなく選ぶ方も多かったです。お連れのお子さんには少し難しそうな本は読み聞かせてあげるのかな？と想像できたり、読書好きらしいお子さんには「どれが読みたいの？」と選択を任せたり、こうした親御さんたちによって子どもさんが本好きに育ち、図書館の使い方を学んでいくのだなと察せられました。そんなとき、大きな駅前図書館より、こじんまりとした、選択肢は少ないけれど選び抜かれた蔵書の鶴川図書館が大事になるのではないのでしょうか。大人も子どもも嬉しそうな、楽しそうな、弾んだ声で会話を交わし、大切に本を選んでくれたのが印象深かったです。紙の本と図書館の未来を信じられる楽しい一日でした。(鶴川 2 丁目在住、郡 & 小山田在住、守谷)

カフェコーナー

テーブルと椅子を配置し、エコストーブで入れたコーヒー(無料)をサービスしました。コーヒーを出しながら「署名はお済みですか？」と促すことも抜かりなくやりました。昼前からは、鶴川 6 丁目在住の方が大人向けの朗読をして下さいました。佐野洋子作「私の風呂戦争」、東海林さだお作「人体の言い分」から「心臓」と「胃」の朗読。テーブルを囲むように座って聞き入る方



たちからは、自然に笑いがこぼれるやさしい時間になりました。

商店街

の中にあるお店「プラスハート」に頼んだおにぎりとお汁 40 セットも完売。隣のテントの署名コーナーがすぐに列ができてしまうので、こちらにも署名コーナーを作りました。最近団地に引っ越してきたという若いお母さんからは、「図書館のことは初めて聞きました。なくさないで」と。太陽の広場は子ども連れの若いパパやママも多く、笑顔あふれる楽しい祭りになりました。(鶴川 6 丁目在住、森)

ダンボール工作と布・ビーズなどを使った本のしおり作りコーナー

ひろばの真ん中にダンボールを積み上げ、普段はなかなかできない広い場所での段ボール工作。大きな本の家を作ったり、ビーズや布を使って本に挟むしおりを作る子どもたち。午前・午後と目いっぱい遊んで、大満足そうでした。(鶴川 6 丁目在住、mH)

鶴川冒険あそびの会による工作コーナー

午後 1 時から 2 時 30 分まで、松ぼっくりにビーズなどの飾りをつけてツリーを作ったり、木の端材を自由に使った工作のお店をしました。最後まで大盛況で、親子は 10 組以上子どものみの参加も併せて 40～50 人が参加してくれました。いつも中央公園の遊び場に来ている子たちが張り切って協力してくれてみんなで盛り上がり楽しいひとときでした。(鶴川冒険あそびの会、青木)



ダンボールに絵を描こうコーナー

同じく午後 1 時から 2 時 30 分まで。太陽の広場の右端で冒険遊び場の“木の実でクリスマスツリー作り”の隣にシートを敷いて“お絵かき場”を作りました。前の石畳を、お馬さんが練り歩き、時々おしっこや大量のフンを落としたりして砂が撒かれるのとかも眺めながら、2 歳から小学生までの子どもたちが絵筆を振りました。5 月から取り組んでいる「鶴川図書館大好き！」の絵や文章を市長へ届けるため、表紙を作ってもらおうというものです。おチビさんたちは、ビニール袋を身にまとい、大胆に絵の具遊びに挑戦、特に 2 歳くらいの男の子は、「もうちょっと、」と言いながら 1 時間くらいも描き続けてその集中力にはびっくりしました。「この

絵を表紙にして市長さんに持っていきます」と説明すると、若いお父さんやお母さんたちは静かにうなずいてくださいました。(金井町在住、庄司)

お馬さんに乗ろうのコーナー

祭りを応援する気持ちで、鶴川名店会と商店街にある馬具屋さんのコラボで、お馬さん大小 2 頭を広場に呼びました。1 回 300 円で乗れ、乗らないまでも、間近にお馬さんを見たり、触ったりできて、子どもたちに大人気。工作などを行っている目の前でお馬さんが大うんちまでするので、ちょっとした騒ぎにもなりましたが、広場に人が集まるようにという名店会の気持ちに感謝。(鈴木)

ニュースポーツを楽しむコーナー

客寄せに登場したのはカラフルな衣装のピエロさん。風船を細長く膨らませてぐるぐるっと巻き付け、剣でもお花でもいろんなものを作ってくれました。梯子みたいに3段の横木のある的を目指して、2 個の小ボールを紐で結んだのを投げて絡ませる「ラダーゲッター」は子どもたちに大人気、長い行列が出来ました。ボールがなかなか的に引っかけられず泣き出す子もいましたが、見ている子どもたちが一生懸命に応援していました。(町田市レクリエーション連盟、藺田)



再びおはなし会

最後のプログラムとして、大きい子どもや大人にも楽しんでいただけるおはなし会として、大型紙芝居「たべられたやまんば」と大型絵本「モチモチの木」の上演後、閉会の挨拶となりました。

今後に向けて

今回、初めて「鶴川図書館大好き!の会」独自のイベントとしてこの祭りを主催しました。鶴川の子どもたちの健やかな成長を願う色々な団体(みどりの森保育園、鶴川冒険あそび場、柿の木文庫、町田市レクリエーション連盟)や鶴川図書館、朗読グループすみれ、商店街の皆さんが鶴川図書館の存続を願って力を合わせてくださったおかげで、心温まるまつりとなりました。ありがとうございました。このつながりを大切に、さらに多くの人たちと手をつなげるように、次のイベントを開催します。(会員)

「図書館カフェ in 鶴川」

鶴川団地内で 47 年間地域住民の皆様にも愛され続けてきた「鶴川図書館」についてたくさんお話ししませんか?

日時:2020 年 1 月 18 日(土)午後 2 時~4 時
場所:鶴川市民センターの和室(1)参加費 300 円
お一人で、赤ちゃん連れで、ご家族そろって、どうぞお気軽に足をお運びください。

連絡先:鈴木真佐世 090-1863-5174

町田の図書館活動をすすめる会に入会しましょう!

図書館は現在、大きな危機に直面しています。図書購入費を始めとする資料費の大幅削減、その影響による利用・貸出しの減少、公共施設再編計画による図書館再編、具体的には「町田市立図書館のあり方見直し方針」(2019 年 2 月教育委員会)によって、鶴川図書館とさるびあ図書館が集約(廃止)の対象とされています。さらに、「効率的・効果的な図書館サービスの方向性」への意見について、図書館協議会の意見を聴くことになっています。

図書館は教育機関であり、首長部局や教育委員会事務局からも相対的に自立した機関です。教育機関の長である図書館長の諮問機関としての図書館協議会が劣化し、機能不全に陥っています。図書館の課題も図書館協議会への諮問ではなく、生涯学習審議会に諮問し、図書館協議会の意見を聞くだけの、あたかも生涯学習審議会の下請け機関のようになっていきます。また、これまで年に 10 回開催されていた定例会も、予算不足を理由に 9 回、現在は 6 回まで減らされています。

町田市立図書館の危機を克服するため、「すすめる会」に加入して、私たちと一緒に活動しませんか?

こんな本み～つけた！(第21回)

『あいうえあそぼうとしょかんで』

草谷 桂子(文)、スギヤマ カナヨ(絵)

子どもの未来社 2019年

紹介:野口 友子



「あいうえあそぼう としょかんで」と始まるこの本は、「図書館ってどんなところ？」という子どもたち、大人たちに「それは、こんなところ！」と「あいうえお」で笑顔で答えている図書館員のような本です。

かるたのように「あ」から始まって「ん」で終わるのですが、五十音それぞれに一枚ずつ、スギヤマカナヨさんによる絵札がついています。文は五・七・五だったり五・七・七だったり字余りだったりしますが、とてもリズムカルで、声に出しても楽しい。

この本は、ストレートでとてもシンプルに「図書館ってこんなところ」ということを楽しく説明していますが、ただの解説の羅列ではない感じがします。「あいうえあそぼう としょかんで」で始まり、「いつでも だれでも だいかんげい」と、図書館、楽しいよ、おいでよ、と呼びかけ、おはなし会やリクエスト、レファレンスサービス、地域資料、相互貸借などの図書館サービスを紹介しながら、無料の原則や利用者の秘密が守られることなどが「あいうえお」で展開していきます。そして巻末に

は「図書館のことをもっと知りたいあなたへ」とわかりやすく簡潔に解説がつけられています。

『なにをよむ？』『なにもよまない』あなたのじゆう「のんびりと ほんをよまずに いてもいい」と、図書館の利用や読書は、自由な意志で行われることだということにも、きちんと触れられています。そして、「ようこそと いつでもきみ“を”まっているよ」「う “ん”めいの あいがあるかも としょかんで！」で締めくくられます。これには巻末に【図書館は成長する有機体】【本や人と出会う場所】という解説がついています。(“ ”は紹介者による)

最近「図書館とは」に、いろいろなもの・ことがくっつけられて語られることが多い気がしますが、この本はまっすぐに「ようこそ！ 図書館へいらっしやい、図書館はこんなところ！」と笑顔で私たちに語りかけています。

(さるびあ図書館嘱託員)

*本書は鶴川駅前・忠生図書館が各1冊所蔵。

移動図書館の現場から

石井 一郎(さるびあ図書館)

町田市には図書館 8 館があります。町田市の面積は71.55平方キロメートルあり、市域が広いので、図書館までなかなか行けない方もたくさんいます。身近に図書館がない地域へは、移動図書館車(「そよかぜ号」)3台による巡回サービスを行っています。

「そよかぜ号」は、さるびあ図書館に2台、堺図書館に1台あります。さるびあ図書館の2台は、忠生地区の南部・鶴川地区・町田地区・南地区の43か所、堺図書館の1台は忠生地区の北部と堺地区の22か所を2週間に一回巡回しています。堺図書館では月に一度、日本聾話学校にも施設巡回しています。2018

年度は1,554回巡回し、77,526冊貸出しました。巡回する場所は、公園・集会所・学校・福祉施設などです。巡回する時間帯は午前10時台、午後2時台、午後3時台です。滞在時間は一か所について40分ないし50分です。雪や台風の際は中止になることはありますが、雨の日も巡回しています。

利用者の多くは、高齢者や乳幼児と保護者です。高齢者の中には歩行車を使っている方もいます。学校週5日制導入以前と比較すると、小学生の利用は少なくなっています。小学生の帰宅途中で移動図書館車に出会っても寄り道はあまりしないので、近くに住

む子が帰宅後来たり、公園に遊びに来た子が利用したりします。その時間に来られない子どもは、家族の人が子どもの利用券を持参して予約や貸出・返却をしています。

私は、堺図書館に勤務していないので、さるびあ図書館での体験を中心に話します。さるびあ図書館からの巡回で利用者が多いのは成瀬台公園と鶴間ガーデンセンアです。50人から60人が利用しますので、移動図書館車2台で対応しています。最近増えているのは鶴間三角公園で40人くらいです。こちらは幼稚園の送迎バスが来る時間と同じ時間帯なので、幼稚園児と迎えに来た母親の利用が多いです。少ない場所だと4,5人です。平均では10人から20人の場所が多いです。移動図書館車1台で運転手1名と職員2名の計3名で本の貸出・返却や予約受付・新規登録と更新手続き・質問の受け答えを行っています。

最近あった事例をいくつか紹介します。先日、三輪中央公園に行った際、公園に遊びに来られた親子さんがいたので、利用案内と日程表をもって話しかけました。横浜市の在住の方だったので、貸出しはできないので、本を読むことができることと横浜市にも移動図書館車が近くまで来ていることを案内しました。そのあと、移動図書館車内に入って、お子さんに本の読み聞かせをしていました。

また、本町田の団地では、利用者から書架の本が少し古いですねと言われました。本の入れ替えは適宜していますが、新刊の購入数が減っているので要求に答えきれないところがあります。巡回場所ごとに利用者の要望にあわせて、その分野の本を少し多く持っています。例えば、大活字本・俳句・童謡・世界各国のことが書かれた児童書・軍事・恐竜・外国語学習本などです。

先日、巡回日の前日に同僚が電話で子どもから頼まれたので、「アオスジアゲハ」の生態がわかる本を持ってきてほしいと母親から依頼がありました。当日、図鑑などの児童書4冊を持参し、母親に一冊ずつ説明して、貸出しをしました。母親からインターネットで調べるのと違っていいと喜ばれました。移動図書館車には約3,500冊しか載せられないことや巡回が2週間に一度なので、できるだけ利用者の声を聞きながらサービスをしています。

図書館の課題としては、移動図書館車の運行継続の問題があります。さるびあ図書館所属の2台とも買い替え時期にきています。平成12年と平成17年に納車なので、年数が20年近くになっています。車の重量も人と本も含めると7トンくらいになるので、運転できる人は資格や技量が必要です。市で運転手を採用していないので、現在の運転手さんが高齢になっており、運転手確保が今後難しくなっています。移動図書館は市域全域にサービスを届けられるので、継続していきたいです。
(会員)



(「そよかぜ号」の写真は、町田市立図書館ホームページから転載しました。)

☆☆☆まちチャレ講座

《もっと知りたい！

町田ならではの歴史と文化》 第5回☆☆☆

町田の未来づくりワークショップ

町田には、江戸期以来の連句、明治の民権運動、戦前からの図書館づくりや市民の個性を生かしたまつりなど、豊かな文化の蓄積があります。未来への原動力となるのは、それら文化の力です。

図書館、博物館、文学館、公民館など、まちの文化の拠点を支えるメンバーが一堂に会して、市民の夢と願いを土台にした「町田の未来」を描き直します。

ファシリテーター 藺田碩哉さん

(まちだ未来の会代表)

日時:2020年1月11日(土)午後2時~4時30分

場所:生涯学習センター視聴覚室

対象:どなたでも 参加費:無料 定員:30名

問い合わせ・申し込み:

町田市生涯学習センター

☎ 042-728-0071

町田市立図書館協議会の存在意義を問う！

手嶋 孝典

本紙前号(No.240)の巻頭に町田市立図書館協議会の前委員長、山口洋さんに退任にあたっての想いを書いていただいた。それに関連して、最近の町田市立図書館協議会が陥っている劣化と機能不全について感じていることを率直に述べることにする。

町田市立図書館協議会は、当会の前身である町田市立図書館をよりよくする会が結成後に取り組んだ運動の最初の成果であり、法定の図書館協議会として設置された。町田市立図書館協議会は、地方自治体である町田市が条例で設置する教育委員会の附属機関という位置付けを当初から持っているのである。しかも、公立図書館の運営は、住民の意思を反映して行われるべきである、というのが図書館法上の立法趣旨である。加えて、公立図書館は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 30 条が規定する「教育機関」であり、図書館長はその教育機関の長である。

以上のことを前提に考えるなら、図書館の課題である「今後の町田市立図書館のあり方について」の諮問(2018年 10月 22日付)は、生涯学習審議会ではなく、図書館協議会に直接諮問すべきだったはずである。図書館協議会に対しては、意見を聞くということがあったが、それだけでは全く不十分である。図書館協議会は、生涯学習審議会の下請け機関のように扱われたのである。

そればかりではなく、山口さんも指摘されていることだが、図書館協議会の開催回数が予算不足を理由に、10回から9回に減らされ、現在は6回に減らされている。また、議事録については、要約したものとなり、発言者名は、委員長、副委員長以外は、A 委員、B 委員としか掲載されなくなった。情報公開・開示という視点からは、後退といわざるを得ない。私が関わっている国分寺市立図書館運営協議会(法定の図書館協議会ではない)では、「要点記録」としているが、かなり詳細に記録されているし、発言者名も掲載している。

これらのことから判断すると、町田市では図書館協議会を機能させずに、形骸化したものにしていく方向なのかと疑わざるを得ない。「由(よ)らしむべし知らしむべからず」=為政者は人民を施政に従わせればよいのであり、その道理を人民にわからせる必要はない(『デジタル大辞泉』)、という統治形態を採ろうとするなら、それは民主主義の自殺行為に他ならず、図書館の理念とは真逆であり、相容れるものではない。

まさに図書館のあり方、行政のあり方が問われている。私たち市民も図書館協議会を設置した原点に立ち返り、図書館協議会が図書館長の諮問機関であり、図書館長に意見具申する役割を十全に果たせるよう、働き掛けていく必要がある。図書館協議会委員として真摯に取り組んでいる方々との連携を！ (代表)

講演会のお知らせ

公立図書館の現在について考える！

現在の公立図書館が置かれている状況の中で、山口さんご自身がどのような問題点、課題を感じられているか、どうしたらそれを克服できるか等について、山口さんのお考えを話していただく、そのような講演会を企画しました。公立図書館に関心をお持ちの方はぜひご参加を！

講師：山口源治郎さん(東京学芸大学教授)

日時：2020年2月1日(土)午後2時～4時(開場 午後1時30分)

会場：町田市立図書館 6F ホール

主催：町田の図書館活動をすすめる会 共催：まちだ自治研究センター(申請中)

参加費：無料 申し込み：不要 連絡先：042-676-4352(手嶋)



ひろば

例会 11/26 (火) 報告

- ・16:00～印刷・発送作業等:久保・清水・鈴木(真)・手嶋・丸岡・守谷
- ・18:00～20:20 中央図書館・小集会室
出席:石井・久保・里見・清水・鈴木(真)・手嶋・野口・増山・守谷

議題

1. 会報について

次号(№241):巻頭言は二転、三転したが、まだ未来の会の菌田碩哉さんに「まちチャレ講座」について書いていただくことに。「こんな本見～つけた!」第21回『あいいうえあそぼうとしょかんで』(野口)、鶴川図書館応援まつりの報告(鈴木(真)、守谷)、「移動図書館の現場から」(石井)

2. 今年度の活動計画について

「町田市5ヵ年計画17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」への対応

まちだ未来の会と連携して活動する。

講演会

山口源治郎さんの講演会は、来年2月1日(土)午後2時～4時 中央図書館ホールにて実施。

テーマ:現在の公立図書館が置かれている状況の中で、山口さんご自身がどのような問題点、課題を感じているか、どうしたらそれを乗り越えられるか等について、お考えを話していただきたい。

図書館見学会

茨城県守谷市中央図書館の見学と交流(担当鈴木(真))。2/29,3/7,3/14を候補として手嶋が打診中。⇒3月14日(土)で調整中。⇒3月14日(土)に決定

図書館まつり

ドキュメンタリー映画「疎開した40万冊の図書」の上映会に決定。3月29日(日)午前10時30分～中央図書館6階ホール 参加者から500円徴収。

3. 「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」等について

まちだ未来の会の取り組み

・まちチャレ(「講座づくり☆まちチャレ」)

第5回のワークショップでは、町田市の歴史と文化(博物館、町田市史、鶴川図書館、文学館など)

の運動に取り組んでいる人たちに呼び掛けて、意見を交わし合う。「知恵の樹」№241 参照

鶴川図書館大好き!の会の取り組み

・秋のイベント取組の状況について

「知恵の樹」№240 参照

・鶴川図書館応援まつり

日時:11月16日(土) 午前10時30分～午後3時会場:鶴川団地 太陽の広場

「知恵の樹」№241 参照

4. 図書館協議会について

第3回定例会 10月31日(木)午後2:00 報告は「知恵の樹」№240参照。図書館の運営方法について委員の意見を聞くのは第3回までで終了。しかし、委員に何を求められているのか全くわからなかった。

5. 会計年度任用職員制度への対応について(省略)

6. 町田市立中央図書館見学と「すすめる会」との交流について

「川崎の文化と図書館を発展させる会」から2020年1月16日(木)で打診があり、中央図書館の見学を希望。館長に打診中。⇒その日に都合の付く人で、「すすめる会」として対応したい。交流会に参加を。

報告

1. 第34回団体登録利用者懇談会

11月14日(木)午後2時～4時 中央図書館 テーブルを3つに分けそれぞれ話し合ったのは今までにない工夫で良かった。

2. 市民参加型事業評価

11月24日(日)午前10:00～午後4:00 町田市民フォーラム4階 高校生5人位が色々な地域から参加していた。高校生も自由に意見を言えるような雰囲気があつてそれは良かった。

3. 団体及び個人からの報告

図書館嘱託労:11月15日広報に会計年度任用職員公募記事掲載。勤務評定は初めて自己評価を実施。

図書館六分会協議会:12月5日(木)定期大会にて新役員決定。

《編集後記》1月28日(火)～30日(木)に東京都多摩地域公立図書館大会が開催される。29日(水)午前中に町田市立図書館協議会委員の松本直樹さん(慶應義塾大学文学部准教授)の講演がある。(T²)